

## 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	水難救助訓練中、レギュレーターにロープが掛かり口から外れパニックになったもの
3. 体験した事例の中心的要素	一連の水難救助訓練の中で主たる行動の準備段階であり危険性の存在は知っていたが、何度も訓練を重ねる中で同様な事例は体験したことが無かったので、認識・注意が足りなかったこと。 また、発生後、2重、3重の対応策があったにもかかわらず、一瞬パニックになってしまったこと。
4. 体験した事例の原因・理由	ロープが絡まりにくいようにダブルチェーンにしたり、他の機材に引っ掛からないようにしていたにもかかわらず事態が発生し、また視界が悪く何が起きているか目視できなかったこと。

## 【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

## 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 15年 8月 0日 午後 3時頃
2. 発生した当時の天候	わからない
3. 発生した活動現場	屋外：港湾内の海底、水深8メートル。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [ 救助（通常時の訓練） ]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：水難（潜水）救助訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[ 42 ]歳、勤続年数[ 18 ]年、現場経験年数[ 13 ]年、階級[ 消防司令補 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 車長 ]
○当事者B	年齢[ 23 ]歳、勤続年数[ 1 ]年、現場経験年数[ 1 ]年、階級[ 消防士 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 隊員 ]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動 [ ]、任務 [ ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者Aが	沈垂にダブルチェーンの検索ロープの策端を固定し、自身も沈垂から2mで固定した。	
経過2	当事者Aが	ダブルチェーンの検索ロープを解絡してもう一方の索端をBに渡した。	
経過3	当事者Bが	環状検索をする為、Aから渡された索端を持って、Aから離れるように泳いだ。	
経過4	検索ロープが	Aのレギュレーターに引っかかり、Bが泳ぐ事により、レギュレーターがAの口から外れた。	
経過5	当事者Aが	レギュレーターを取り戻そうと、ロープを引っ張ったが、Bと綱引状態となってしまった。	
経過6	当事者Bが	検索ロープがAのレギュレーターに引っ掛かっている事には気がつかず、環状検索のため、待機した。	
経過7	当事者Aが	レギュレーターを取り戻す事ができなく、軽いパニックとなった。	
経過8	当事者Aが	パニックを脱し、冷静に戻り、オクトパスを取り、呼吸を再開した。	
経過9	当事者Aが	検索やめの合図をBへ送り、訓練を中止し、浮上した。	
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知っていた。その他：冷静な状態に早期に戻ることができた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
---------------------------	-----

・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：水中視界が悪く、相手の状態が把握できなかった。
----------------------------

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について



ダブルチェーンの  
ループがレギュレー  
ターに引っ掛かった  
と思われる



検索ロープを引くこと  
により、レギュレー  
ターが外れた状況

・発生日時 :平成15年8月 午後3時頃

経過	現場の状況	当事者A	当事者B	備考
		車長／消防司令補 ・年齢 42 歳 ・勤続 18 年 ・現場 13 年 ・同様の活動:頻繁	隊員／消防士 ・年齢 23 歳 ・勤続 1 年 ・現場 1 年 ・同様の活動:頻繁	
	水難救助訓練			
	港湾内の海底、水深8メートル。			
		訓練開始 ↓ 沈垂にダブルチェーンの検索ロープの策端を固定し、自身も沈垂から2mで固定した。 ↓ ダブルチェーンの検索ロープを解絡してもう一方の索端をBに渡した。 ↓ 状況検索をする為、Aから渡された索端を持って、Aから離れるように泳いだ。 ↓ <b>Aのレギュレーターに引っかかる。</b> ↓ <b>気づかず泳ぎ続ける。</b> ↓ <b>レギュレーターがAの口から外れる。</b> ↓ <b>レギュレーターを取り戻そうと、ロープを引っ張ったが、Bと綱引状態となる。</b> ↓ <b>検索ロープがAのレギュレーターに引っ掛かっている事には気がつかず、環状検索のため、待機した。</b> ↓ <b>レギュレーターを取り戻す事ができなく、軽いパニックとなった。</b> ↓ パニックを脱し、冷静に戻り、オクトパスを取り、呼吸を再開した。 ↓ 検索やめの合図をBへ送り、訓練を中止し、浮上した。		ロープが絡まりにくいようにダブルチェーンにしたり、他の機材に引っ掛からないようにしていたにもかかわらず事態が発生した。  2重、3重の対応策があったにもかかわらず、一瞬パニックになってしまった
	視界が悪く何が起きているか目視できない状態			

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因:行動の実行に問題があった。
- ・危険事象の対応方法を知っていた。
- ・冷静な状態に早期に戻ることができた。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (心理・体調について)
  - ・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
  - ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
- (活動環境について)
  - ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。
- (指揮・管理について)
  - ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)
- (その他)
  - ・水中視界が悪く、相手の状態が把握できなかった。